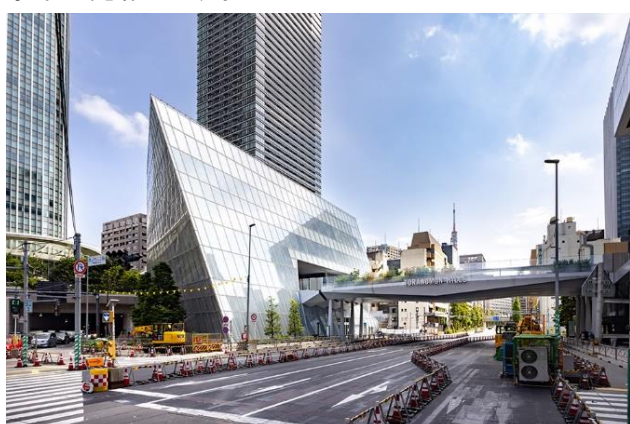


虎ノ門ヒルズ ステーションタワーの再開発事業が完結 クロスセクターで社会課題解決を目指す拠点「Glass Rock」が誕生 ～企業・行政機関・NPO・市民等が領域を超えて協力する共創プラットフォーム～

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長 辻 慎吾)他が推進し、2024 年 8 月に竣工した虎ノ門ヒルズ「グラスロック」(虎ノ門一・二丁目地区第一種市街地再開発事業 A-2 街区)に、クロスセクターで社会課題解決を目指す拠点「Glass Rock ～Social Action Community～」(以下、Glass Rock)が、2025 年 4 月 9 日(水)に誕生します。「Glass Rock」と個性豊かな 7 店舗のオープンによって、「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」の再開発事業が完結します。



虎ノ門ヒルズの中心部に位置する「グラスロック」



社会課題解決に向けた「場」と「仕掛け」を提供

「虎ノ門ヒルズ」の交通結節機能と回遊性がさらに向上

「虎ノ門ヒルズ」は、東京都心部における新たな交通結節点として、環状 2 号線、大規模バスターミナル、東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」と一体的に整備した広大な駅前広場、幅員 20m の大規模歩行者デッキなど、地上・地下・デッキレベルの重層的な交通ネットワークを強化・拡充してきました。虎ノ門ヒルズの中心に位置し、「森タワー」と「ステーションタワー」を繋ぐ幅員 20m の大規模歩行者デッキ「T-デッキ」が貫通する、地上 4 階・地下 3 階、延床面積約 8,800 m²の複合施設・虎ノ門ヒルズ「グラスロック」が開業することで、「虎ノ門ヒルズ」の交通結節機能と回遊性がさらに向上します。

クロスセクターで社会課題解決を目指す新たな拠点が誕生

近年、少子高齢化、テクノロジーと倫理の問題、気候変動、貧困・格差、ジェンダー問題など、特定の組織や領域のみでは解決が難しい社会課題が増加しています。ますます複雑化する社会課題を解決するためには、企業、行政機関、NPO・NGO、個人など、領域を超えた(クロスセクター)連携と共創が求められています。

多様な人々が集い、交流する「虎ノ門ヒルズ」に誕生する「Glass Rock」(約 890 m²、地上 4 階及び地下 1 階)は、クロスセクターの連携と共創により社会課題の解決に取り組む会員制拠点です。コミュニティ運営の専門家が支える「つながる」場、実践的な学びや対話を生み出すプログラムやイベントなどの「まなぶ」仕掛け、そしてイベントスペースやギャラリーなど、社会に対する視点を「ひろげる」発信機能を有します。これらの「場」と「仕掛け」を通じてクロスセクターの連携と共創を促進し、「社会課題解決」に向けたイノベーションの創出と持続可能な社会の実現に貢献します。

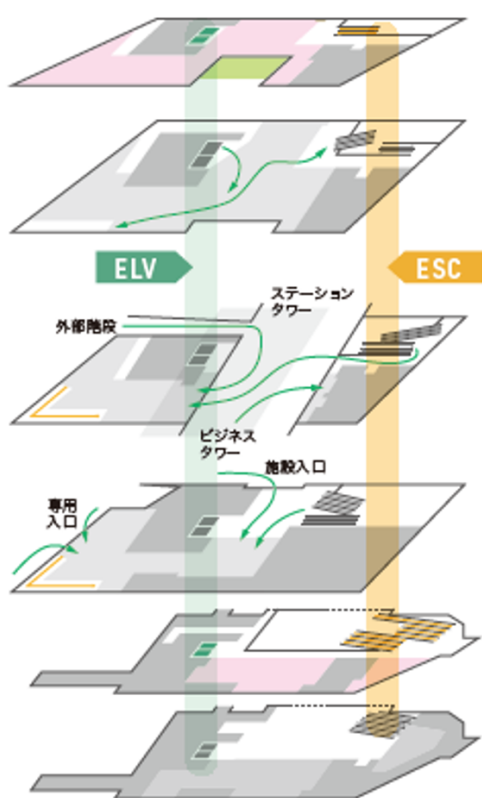
当社は引き続き、グローバルプレイヤーを惹きつける多様な都市機能が複合した「国際新都心・グローバルビジネスセンター」の創出を通じて、国際都市・東京のさらなる磁力向上に貢献してまいります。

虎ノ門ヒルズ「グラスロック」概要

・虎ノ門ヒルズ配置図



・「グラスロック」断面図



4F GLASS ROCK

Social Action Community

Partners Lounge

3F magmabooks [書店]

2F magmabooks [書店] Uchu Brewing [クラフトビール]

1F TULLY'S COFFEE&TEA [カフェ] BENOIT NIHANT [チョコレートショップ] ROSE GALLERY [フラワーショップ]

B1F GLASS ROCK

Social Action Community

Members Lounge / Gallery

B2F BANANA REPUBLIC [メンズ・ウィメンズファッション] OWNDAYS [眼鏡店]

「つながる」「まなぶ」「ひろげる」の機能を通じて、社会課題の解決を促進

「Glass Rock」は、「つながる」場、「まなぶ」仕掛け、「ひろげる」発信の3つの機能を提供することで、クロスセクターの連携と共創を促進し、「社会課題解決」を起点にしたイノベーションの創出に挑戦します。また、施設全体の企画・運営には、慶應義塾大学の宮田裕章教授も「アドバイザー」として参画します。

■「Glass Rock」の機能①「つながる」：社会課題解決への連携・共創を促進する「コミュニティ形成・活性化」



「Glass Rock」では、社会をより良くしたいという想いを持つ多様な人が参画し、領域を超えて継続的に集うコミュニティを形成します。また、施設にはコミュニティを活性化させる「コミュニティマネージャー」や、プロジェクトの促進に必要な人や団体を積極的につなぎ支援する「共創コーディネーター」を配置し、密接で深い議論を促します。「共創コーディネーター」には経済産業省初公募型「週一官僚」として民間の視点を持ちながら空飛ぶクルマのプロジェクトに携わった小菅隆太氏と、国家公務員として初めて米国の美術大学院に留学し、デザイン思考を取り入れた政策立案を推進した元経済産業省の橋本直樹氏の2名を起用しました。また、コミュニティの運営には、多様な人々からなるコミュニティの活性化を推進する株式会社ヒトカラムメディアが「運営パートナー」として参画します。

■「Glass Rock」の機能②「まなぶ」：実践的な学びを通じて解決策を探る「プログラムとイベント」



議論だけでなく、実際の社会課題の解決策や行動につなげるために、企業と行政機関、NPO・NGOなどがケーススタディやナレッジ、ノウハウを持ち寄り、相互に学び合えるプログラムを用意。

また、課題の最前線の知見と経験を有し、実務として解決に向けて取り組む30団体を超えるNPOや企業、政府外郭団体、アカデミアなどが「共創パートナー」として参画。社会課題起点の協働プロジェクトの立ち上げや、解像度を上げる支援、課題に取り組むフィールドの提供や会員がその現場を体験するイベントやワークショップの開催など、様々な形で施設と連携し、会員にその知見と経験を共有、共創を促す「仕掛け」も備えます。

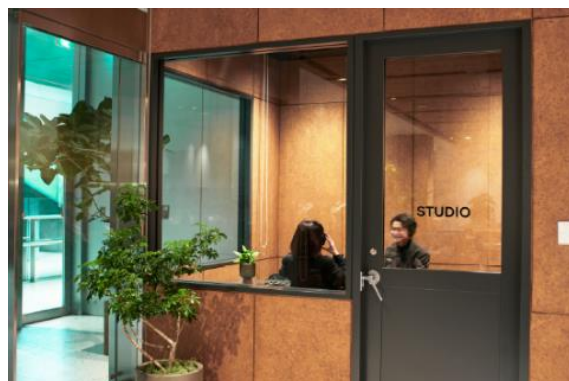
■「Glass Rock」の機能③「ひろげる」：理解と共感を深め、共に行動する「情報発信の場」

社会課題の解決には、開かれたコミュニティが不可欠です。より多くの人に理解され、共感を集めることで新たな関係者や支援者を巻き込み、大きなうねりを生み出すために、「Glass Rock」にはギャラリーや防音設備の整ったスタジオなど、会員の活動を発信する機能を備えます。

さらに、定期的に会員の活動をまとめるレポートの発信や、法人パートナーの活動のデータベース化などを通じて、会員の取り組みの透明性の確保と社会的信用の強化を図ることで、「Glass Rock」は社会課題解決を促進する「ひらかれた結節点」として機能します。



イベントや展示会などを通じて
会員が取り組む活動を可視化



音声コンテンツの収録スタジオも完備することで
社会課題解決の現場の生の声を配信

「Glass Rock」施設概要

「Glass Rock」の4階には法人パートナーと共創パートナーが利用する「Partners Lounge」、地下1階にはすべてのカテゴリーの会員のための「Members Lounge」と「Gallery」を配置。フロアを横断した連携や共創を通じて、社会課題解決を目指します。

■Partners Lounge(4階) (約 569 m²)



約 100 社約 300 名の法人パートナーと 30 団体を超える共創パートナーが集い、日常的に交わり、共創の可能性を探る場です。バーカウンターを備えたオープンスペースを併設し、日常の偶発的な対話も促進するほか、法人パートナーを対象とした「Take Off Program」や「X Roadmaps」をはじめ、社会課題解決に向けた実践的なセミナーやワークショップの場としても活用します。オープンスペースの一角にはライブラリーコーナー「TANA」を整備。人とアイデアとアクションをつなぐ「架け橋」の役を担います。

■Members Lounge(地下1階) (約 258 m²)



法人パートナー、個人メンバーの種別を問わずすべての会員が利用できるこのラウンジは、多様なセクターの人が集まり、対話を重ね、新たな取り組みや実践の機会を提供する共創の拠点です。コミュニティマネージャーが人と人のコミュニケーションを媒介し、中央にあるキッチンも活用しながら共創を促進します。

レイアウトを変更するとシアター形式で最大約 70 名収容が可能となり、様々なセミナーや勉強会の舞台となるほか、音声コンテンツの収録ができる防音のスタジオを完備。社会課題に向き合う生の声を発信します。

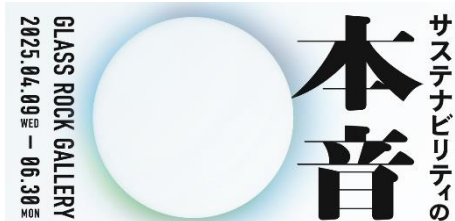
■Gallery(地下1階) (約 63 m²)



「虎ノ門ヒルズ駅」の駅前広場に面し、「虎ノ門ヒルズ」の中心に位置する「グラスロック」内にある「Gallery」では、イベントや展示会などを開催することで、会員の取り組みを可視化します。

2025 年 4 月 9 日 (水)～6 月 30 日 (月)の期間、「サステナビリティの本音～『自分だけじゃムリ』から『自分にもできる!』へ～」をテーマに、企業の統合報告書(※)から見る社会課題や実際に取り組む担当者の声を展示。社会をもっとよくするアイデアを集めたウェブマガジン「IDEAS FOR GOOD」の協力のもと、社会をより良くするアクション事例も紹介します。来場者は展示を通じて、自身が気に入った「明日からできる小さな一歩」に投票。来場者の意見は集約され、社会に向けて発信されます。本展示会は、サステナビリティに関する率直な対話を生み出し、持続可能な未来に向けた道筋を探るきっかけとなることを目指します。

(※)統合報告書:企業の戦略やガバナンス、パフォーマンス、将来の見通しなどを開示するレポート。サステナビリティへの取組もここに記載される。



「Glass Rock」プログラム概要および書店「magnabooks」との連携

「Glass Rock」では、クロスセクターでの共創に必要な能力「未来思考(※)の力」「対話の力」「協働の力」を育むプログラムを展開。さらに、実際の社会課題の解決策や行動につなげるため、会員である企業と省庁・自治体、NPO・NGO・アカデミアなどがケーススタディやナレッジ、ノウハウを持ち寄り、相互に学び合えるワークショップも主催します。さらに、2 階・3 階の書店「magnabooks」とも連携することで、会員以外の方にも学びの機会を広げます。

(※) 未来思考: 物事を考える視点を未来に置き、そこから現在を振り返ることによって、今起こしたいアクションを決める思考方法のこと



2025 年 7 月より、ディレクターの中嶋愛氏(スタンフォード・ソーシャル・イノベーション・レビュー日本版創刊編集長)がカリキュラムを監修し、クロスセクターで共創するための仕組み・手法・課題・事例を実践者との対話を通じて学ぶ「Take Off Program (TOP)」や、SXSW(サウス・バイ・サウスウエスト)日本代表団も務めるコンテンツパートナーの VISIONGRAPH Inc.による未来のあるべき姿を構想した上で現在からのアクションプランを議論する「X Roadmaps」などを実施予定。志を同じくする仲間と出会い、関係を築きながら、中長期的な視点で社会課題解決に取り組む機会を参加者に提供します。他にも 1day ワークショップや

セミナーなど、様々なアプローチで視野を広げ、個人のアクションにつなげます。

■「Glass Rock」オープニングプログラムシリーズ

- ・2025 年 4 月 21 日(月): 「営利と非営利ができること」～社会課題解決の事業化に向けて～

登壇者: 石川洋人(一般社団法人 Arc&Beyond 代表理事)、猪股裕(一般社団法人ちいきん会 運営事務局プロデューサー)、鈴木雅剛(株式会社ボーダレス・ジャパン 代表取締役 COO)

モデレーター: 中嶋愛(編集者/Glass Rock プログラムディレクター)

- ・2025 年 5 月: 「”Ibasho”は世界の言葉に！すべての人に「居場所」がある社会を目指して」

登壇者: 渡辺由美子(認定 NPO 法人キッズドア 理事長)、三島理恵(認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ 理事)、石川貴志(一般社団法人 Work Design Lab 代表理事)

モデレーター: 橋本直樹(Glass Rock 共創コーディネーター)

- ・2025 年 5 月: 「あなたと私。私たちと自然。みんなのウェルビーイングを語ろう」

モデレーター: 宮田裕章(慶應義塾大学教授/Glass Rock アドバイザー)

- ・2025 年 6 月: 「気候変動への向き合い方～私たちそれぞれのアプローチ～」

モデレーター: 今井章子(昭和女子大学教授)

- ・2025 年 6 月: 「多くの人が参加する仕掛けが持続可能な街をつくる」

モデレーター: 小菅隆太(Glass Rock 共創コーディネーター)

※日程、タイトル及び登壇者は変更の可能性があります。

■「magnabooks」(2 階・3 階)との連携

「知」との出会いを軸とした新スタイル書店「magnabooks」と連携し、学びの機会を広げます。書店内に「Glass Rock」で取り扱う社会課題関連書籍のコーナーを設置するほか、期間限定で「magnabooks」内のギャラリーと「Glass Rock」の「Gallery」を連動させ、会員以外の幅広い方々にも情報を発信。社会課題解決に向けた「最初の一步」を促すきっかけを、会員以外の方にも提供していきます。

<参考>magnabooks 概要



国内書店大手の丸善ジュンク堂書店の新業態となる書店。コンセプトは「知は熱いうちに打て」。「magnabooks」は、本を読む前(読前)から読む最中(読中)、そして読み終わった後(読後)まで味わい尽くせる、知的興奮と創造性にフォーカスを当てた未来型の体験を生み出します。そして、従来の書店が提供する「販売」のみの場を超え、「知」との出会いを軸とした創発の場として、書店の歴史に新たな 1 ページを加えます。具体的には、多様な「問い」を書籍に紐づけ、本との出会いを創出する「問い散歩」や 編集型書棚である「知の森 - Forest of knowledge -」などの新たなインタラクティブな要素、集中とリラクセスを追求した有料ラウン

ジ「magmalounge」などが特徴です。書籍についてはこれまでの「本を探す」書店から、「本と出会う」書店を目指し、既存のジャンル別構成の売場(3 階)の他に、テーマごとに編集し、本棚を通じて未知と出会い、新たな世界観を提示する売場(2 階)を設置します。また、ギャラリースペースでの展示やコラボイベントも行い、文化と知識のハブとなる書店の新たな役割を提示しています。

(参考①)虎ノ門ヒルズの概要

虎ノ門ヒルズエリアでは、「虎ノ門ヒルズ 森タワー(2014 年竣工)」「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー(2020 年竣工)」「虎ノ門ヒルズ レジデンシャルタワー(2022 年竣工)」に続き、2023 年には東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」と一体開発した「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」、2025 年には「グラスロック」が加わったことで、区域面積約 7.5ha、延床面積 約 80 万㎡に拡大。国際水準のオフィス、住宅、ホテル、商業施設、インキュベーションセンター、交通インフラ、緑地など、様々な都市機能を徒歩圏内に備えた虎ノ門ヒルズエリアは、東京・日本にグローバルプレイヤーを惹きつける「国際新都心・グローバルビジネスセンター」として、六本木ヒルズに匹敵するインパクトを有する国際複合都市へと進化します。

■「東京の玄関口」となる都心の新たな交通結節点

2014 年竣工の「森タワー」では、道路上空に建築物を建てる画期的な手法「立体道路制度」を活用し、市街地再開発事業の中で環状二号線と超高層タワーを一体的に整備しました。こうして 68 年の歳月を経て実現した環状二号線が、2022 年 12 月に全面開通したことで、東京都心部と臨海部や羽田空港のアクセスは飛躍的に向上しました。2020 年竣工の「虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー」には、日比谷線「虎ノ門ヒルズ」駅や銀座線「虎ノ門」駅に地下通路で直結し、1 階には空港リムジンバスや都心と臨海部を結ぶ東京 BRT(高速バス輸送システム)が発着する約 1,000 ㎡のバスターミナルを整備しました。

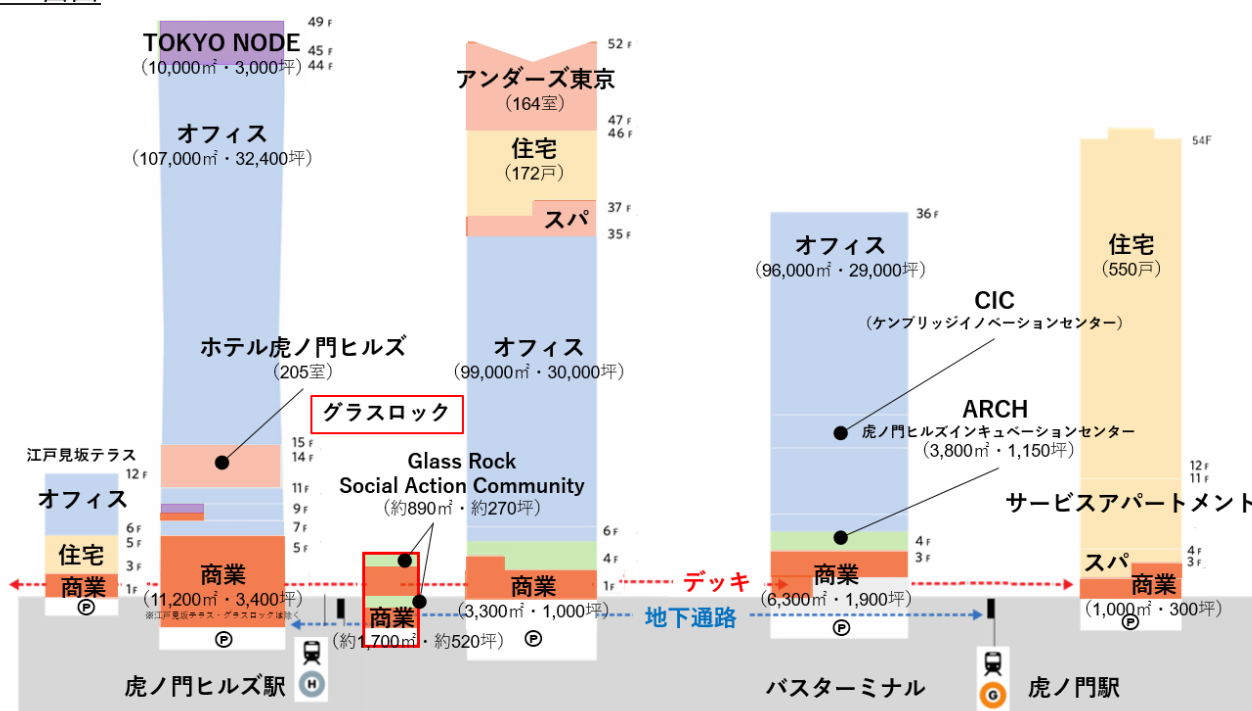
加えて、「虎ノ門駅」や「虎ノ門ヒルズ駅」とバリアフリーで繋がる地下歩行者通路、各タワーを接続する歩行者デッキを設置。2023 年に竣工した「虎ノ門ヒルズ ステーションタワー」では、駅街一体開発を通じて、これまで日本の地下鉄駅にはなかった開放的な駅前広場「ステーションアトリウム」の創出に加え、桜田通り(国道 1 号線)上に「森タワー」のオーバル広場へと接続する、幅員 20m もの大規模歩行者デッキを整備。エリア全体の回遊性と賑わいが大幅に向上しました。

新たな人の流れと、エリア全体をつなぐ歩行者ネットワークを創出することによって、「虎ノ門ヒルズエリア」は、世界と都心部を繋ぐ新たな「東京の玄関口」として機能します。

■エリアプロジェクト概要

区域面積	: 約 7.5ha
延床面積	: 約 80 万㎡
オフィス面積	: 約 30 万㎡
住宅戸数	: 約 730 戸
商業面積	: 約 26,000 ㎡
緑化面積	: 約 21,000 ㎡

■立面図



(参考②)「イノベーションエコシステム」構築に向けた森ビル取り組み

東京が国際都市間競争を勝ち抜くためには、絶え間なくイノベーションを創出し、社会や産業を進化させ続けることが不可欠です。森ビルは、多様な「場」と「仕掛け」と「発信」を通じて、都市全体でイノベーションを生み出すエコシステムを促進し、新産業の創出や社会課題の解決に貢献してきました。磁力のある都市には、人や企業、知見が集まり、それがさらに都市の磁力を強化し、新たな産業やビジネスの機会、そして社会変革のうねりを生み出します。

■イノベーションエコシステム構築を担う各施設の概要

・「ARCH Toranomon Hills」(虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー)

大企業の新規事業創出に特化したインキュベーション施設として、2020年4月、「ビジネスタワー」に誕生。約120社・約1,000名が参画(2025年3月現在)。豊富なリソースやネットワークを持つ大企業ならではの可能性と課題にフォーカスし、新規事業創出部門の「出島」として、事業創出に必要な知識やマインドセットを学ぶスクール、イノベーションを創出するためのネットワーキング、豊富な経験を有するメンターによる課題解決のサポートなどのサービスを提供しています。

大企業による新規事業創出を支援



・「CIC Tokyo」(虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー)

CIC Tokyo は、虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーの15階と16階に計6,000㎡を有する、快適なシェアオフィススペースと、世界に繋がるイノベーションの発信地です。現在の入居企業は350社以上、イベントはVenture Café 主催のものや非公開のものも含め年間600を超えます。

スタートアップのグローバルでの成長を支えていくとともに、世界中のイノベーター・投資家・企業が高密度に集うイノベーション・コミュニティを創出することで、単なる「オフィススペース」ではなく、有望なスタートアップ企業が必要な時に必要なサポートを受けることができ、次々とイノベーションが起きていく環境を目指しています。

日本最大級のイノベーションコミュニティ

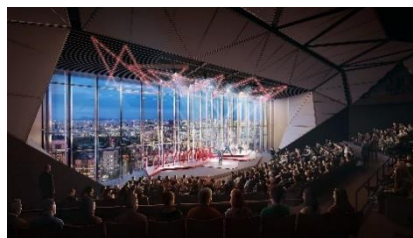


・「TOKYO NODE」(虎ノ門ヒルズ ステーションタワー)

「ステーションタワー」の最上部に位置する、約10,000㎡の新たな情報発信拠点。ビジネス、アート、エンターテインメント、テクノロジー、ファッションなど、従来型の領域やジャンルにとらわれず、様々なコラボレーションを促進することによって、新たな体験や価値、コンテンツや情報などを創出し、広く世界に向けて発信することを目指しています。

また、「TOKYO NODE LAB」では、業種や領域を超えた一流の才能や、イノベティブな企業11社が集結。「クリエイティブエコシステム構築に向けた共同プロジェクト」を通じて、新たな都市体験やコンテンツを創出・発信します。

最新テクノロジーによるイノベーションの発信の場



©DBOX for Mori Building Co., Ltd.

・「虎ノ門ヒルズフォーラム」(虎ノ門ヒルズ 森タワー)

「森タワー」に位置し、オーバル広場を臨むエリア最大のカンファレンス施設。無柱・分割可能な3つのホールを中心に約 2,000 名を収容。ロビーやホワイエ、ミーティングルームやカフェなどと一体的に活用することで、洗練されたプライベートな空間を演出します。

ビジネス、政策、テクノロジー、サステナビリティなど多様なテーマに対し、国際会議や企業イベントなど多彩なプログラムを展開。国内外のリーダーや実践者、支援者が集い、対話や展示を通じて、新たな知見や技術、価値を発信し、社会へとつなげていく場を提供します。

エリア最大のカンファレンス施設



・「Tokyo Venture Capital Hub」(麻布台ヒルズ)

独立系ベンチャーキャピタル(VC)とコーポレートベンチャーキャピタル(CVC)約 70 社が集う、日本初の大規模な VC 集積拠点。業界の成長や次世代 VC の育成に寄与する勉強会やイベントを、独立系 VC も積極的に巻き込みながら実施することで、VC 及び CVC 相互の交流と成長を促進。スタートアップの成長に欠かせないリスクマネー供給の拠点として、日本経済活性化の起爆剤となることを目指します。

リスクマネーの供給拠点



・「Japan Innovation Campus」(米国・シリコンバレー)

経済産業省より受託した「海外における起業家等育成プログラムの実施・拠点の創設事業」の一環として開設した、米国・シリコンバレーのビジネス拠点。日本の起業家や学生等を受け入れると共に、現地のアクセラレーターや VC 等の民間企業、世界トップクラスの大学・学術機関、行政機関を含む産学官で連携することで、日本のスタートアップの海外進出とエコシステムの成長・発展を強力に後押しします。

また、日米のスタートアップ、企業、投資家の交流機会を創出するなど、日米双方向のオープンイノベーションの実現を目指します。

日本発スタートアップの米国拠点

